

◇————◇
公益社団法人 日本航空機操縦士協会

メールマガジン Vol.172 2025/12/15
◇————◇

いつも JAPA メールマガジンをご愛読頂きありがとうございます。
今号は以下の内容でお送りいたします。

★—INDEX—★

- [1] 【常務理事コラム】「みんなの力で、インシデントを未来へ押しやる」
- [2] 【航空局】 航空法等の一部を改正する法律の施行に伴う
関連省令等の改正及び制定について
- [3] 【航空局】（お知らせ）防衛省の破壊措置ノータム
（北朝鮮による「衛星」発射）の期間延長について
- [4] 【航空局】 令和 7 年 12 月 1 日適用_航空保安業務処理規程
の一部改正（航空法第 96 条の改正に関する改正等）について
- [5] 【お知らせ】 第 23 回小型航空機セーフティセミナー
2026 年 2 月 5 日～6 日 東京/オンライン開催 お申込み受付開始
- [6] 【会員限定】 第二回見学会&安全セミナーのご案内
- [7] 【VOICES FEEDBACK】
 - <①>着陸後の Taxi 経路間違い
 - <②>帰投時、使用滑走路と逆側の滑走路への進入
- [8] 【お知らせ】 JAPA E-Journal の公開
- [9] 【お知らせ】 セミナー・イベント
- [10] 【新発売】 JAPA SHOP よりご案内
- [11] 【ご案内】 公益社団法人 日本航空機操縦士協会 ご入会について

- ★—————
- [1] 【常務理事コラム】
「みんなの力で、インシデントを未来へ押しやる」
常務理事 小野 和彦
- ★—————

皆さま、いつもお世話になっております。
今回は「安全とは何か」について、少し違った角度からお話ししたいと思います。

私たちは「安全」という言葉を聞くと、何も起きていない穏やかな状態を思い浮かべがちです。しかし、現場で長年飛んできた経験から、私は少し違う見方をしています。

—安全とは「状態」ではなく「行為」である—

実は、インシデントやアクシデントの芽は、今この瞬間も私たちのすぐそばに存在しています。それが顕在化しないのは、偶然ではありません。
整備士が見落としそうな小さな異常に気づく。副操縦士が「ちょっと確認させてください」と声をかける。管制官が一瞬の間を置いて再確認する。客室乗務員が「何か変だな」という直感を報告する。
こうした一つひとつの行為が、次の瞬間に起こりうるインシデントを、1時間後へ、1日後へ、そして未来へと押しやっているのです。

—「何も起きていない」のではなく「起こさせていない」—

安全なフライトが続いているとき、それは「たまたま何も起きなかった」ではありません。見えないところで、無数の人々が小さな行動を積み重ね、リスクを未来へ押しやり続けているのです。
この視点に立つと、安全は決して「完成」しません。私たちは毎日、毎フライト、新たにそれを創り出しているのです。

—だからこそ、声を上げることが大切—

「こんな小さなことを言っても」と躊躇する瞬間があるかもしれませんが、その一言が、インシデントをまた少し未来へ押しやる力になります。

安全は、誰か一人のヒーローが守るものではありません。
チーム全員の、小さいけれど確かな行動の総和として存在しています。
今日も空の安全を支えてくださっているすべての皆さまに、
心からの敬意を表します。



[2]【航空局】 航空法等の一部を改正する法律の施行に伴う
関連省令等の改正及び制定について



航空法等の一部を改正する法律（技能発揮訓練）の施行に伴う
関連省令（登録訓練機関に関する省令等の改正及び制定）
について、 別添のとおり改正及び制定されましたので、
お知らせします。

詳細はこちらをご参照ください。

<https://www.japa.or.jp/11741>



[3]【航空局】（お知らせ）防衛省の破壊措置ノータム
（北朝鮮による「衛星」発射）の期間延長について



航空局より、従前より発行されておりました防衛省の破壊
措置（北朝鮮による「衛星」発射）に係るノータムについて、
設定期間が「令和8（2026）年2月20日午前0時
（日本時間）（予定）」まで延長になる新たなノータムが
発行されましたので、お知らせいたします。

詳細はこちらをご参照ください。

<https://www.japa.or.jp/11637>



[4] 【航空局】 令和 7 年 12 月 1 日適用_航空保安業務処理規程の一部改正（航空法第 96 条の改正に関する改正等）について



航空局 交通管制部 管制課より、令和 7 年 12 月 1 日適用の「航空保安業務処理規程第 5 管制業務処理規程」（航空法第 96 条改正に伴う改正等）の改定に関する通知依頼がありました。

【適用日】

令和 7 年 12 月 1 日

【改正概要】

- 航空法第 96 条改正に伴う改正
- 二次レーダー管制機関別特定コードの改正
- 管理管制日誌に係る記入要領の改正
- その他所要の改正（誤記修正等）

詳細はこちらをご参照ください。

<https://www.japa.or.jp/11657>



[5] 【お知らせ】 第 23 回小型航空機セーフティセミナー
2026 年 2 月 5 日～6 日 東京/オンライン開催 お申込み受付開始



【開催日時】

セミナーⅠ：2026 年 2 月 5 日（木）10:00～16:30

（開催時間は現時点での予定です）

セミナーⅡ：2026 年 2 月 6 日（金）10:00～16:30

（開催時間は現時点での予定です）

【開催方法】

ハイブリット形式（来場＋オンライン Zoom ウェビナー）

※開催日の3営業日前に配布資料 URL、ZoomURL、実参加 QR
コードを掲載したリマインドメールを送信する予定です。
お申し込みの際には確実にリマインドメールを受け取る
ことができるメールアドレスでお申し込み下さい。

【会場】

航空会館ビジネスフォーラム
〒105-0004 東京都港区新橋 1-18-1
航空会館 701+702 会議室

【受講費】

会員：1,000 円（税込）
一般：8,000 円（税込）

※来年度は価格改定を予定しています、
詳細は決定次第本ページ内でお知らせいたします。

詳細やお申し込みはこちらをご参照ください。

<https://member2.japa.or.jp/seminar/detail.php?sid=6>



[6] 【会員限定】 第二回見学会&安全セミナーのご案内



GA 委員会では、2025 年度第二回目の見学会・安全セミナー
を執り行うこととなりました。

今回はご要望が非常に多かった、管制塔内、航空会社の
オペレーションセンターの見学会になります。

会員様限定の見学会・安全セミナーになりますので、
奮ってご参加ください。

【参加条件】

当協会の会員であること（会員の種別は問わない）

* 飛行機、回転翼操縦士のみ参加可能です。

（滑空機・無人航空機の操縦士は参加できません。）

*賛助会員の方は、18 歳以上且つ航空会社・ハンドリング会社等の運航関係者であること。今回、管制塔内部の見学を行うため保安が非常に厳しくなっております。

【日時】

2026 年 2 月 16 日（月）10:00～15:30 成田空港内

【集合場所】

09:45 成田空港第二ターミナル 1F JAL 国内線カウンター前

【見学内容】

10：00～11：30 JAL 成田オペレーションセンター

（ディスパッチルーム、乗員部、カウンター、

Weight & balance 作成室等）

13：30～15：30 東京航空局成田空港事務所

（管制塔、東京国際対空通信局、質疑応答）

*東京国際対空通信局（洋上管制 HF 通信室）があるのは、国内では成田だけ！！

【定員】

20 名（先着順、締切 1 月 25 日）

【参加費】

5,000 円（※事前決済 クレジットカード）

※但し、現地までの交通費、宿泊費等は自己負担とさせていただきます。

その他詳細やお申込みはこちらをご参照ください。

<https://www.japa.or.jp/11764>



[7] 【VOICES FEEDBACK】

<①> 着陸後の Taxi 経路間違い

<②> 帰投時、使用滑走路と逆側の滑走路への進入



①機長（SIC）の私は、羽田空港 RWY 34L に着陸後、国際線ターミナルへ向け、“L13, B, P, Hold Short of M”の管制指示が出たところを、L13→B→L と経路を間違えた。L にいる旨を管制から指摘を受け、誤認したことを確認し、“L, M, Hold Short of P11”と改めて管制から指示を受けた。その後、駐機場へ向かうために P→P8, Spot ○○ 番へ向かった。私は、L13 から B へ向かい、PM（副操縦士）から「180 度曲がってください」と 2 回連続してアサーションがあったため、L と P の認識が不十分のまま Turn した。ここで曲がる前に、一度止まって確認する必要があったことを乗務後 PM と Remind した。PM は、直近に発生した Taxiway 間違いのことについても Crew 間で共有していたにも関わらず、夜間で現在位置が分かりづらく、PF に不適切な Advice をしてしまったこと、また“Hold Short of M”という指示があったため、M からの Traffic の有無に気を取られ、誤りに気付きませんでした。実際には我々の Spot が空いていなかったための指示でした。OBS シートの PIC も、長大路線後の夜間の着陸後、それまでの PM の適切なアサーションとそれを受けての PF の Taxi 操作に依存してしまい、第 3 のモニターとしての機能が果たせませんでした。3 人でその後振り返り、本来なら L12 から Vacate RWY する状況であったが、管制から L13 の指示を受け Hot Spot に向かうことになり、Briefing で経路を確認していたが実際には間違ってしまった。特に夜間では L13 からの経路をより明確にイメージする必要があることと、疑義が生じた場合は一度止まって確認することを共有した。

② Navigation からの帰投時、レポーティングポイントから場周経路に入る際、使用滑走路である RWY 17 ではなく、RWY 35 の Base に進入しようとした。タワーに RWY 情報をもらった際は RWY 35 であった（この後すぐに RWY Change が行われたと思われる）ため、自身の思い込みによりレポーティングポイントでの管制指示“RWY 17, Make Circle before Base”を“RWY 35, Make Circle before Base”

とリードバックしてしまった。管制官にリードバックの訂正を受けなかったため、私は RWY 35 だと確信をもって機内でも「RWY 35」とインテンションを出し、RWY 35 の Base へと変針をした。その際、エアライン機への RWY 17 での離陸許可は聞こえていたが、当該空港でよくあるエアライン機のみ使用滑走路が違うパターンで運用しているのだと思い込んで、自身の RWY が 35 であることへの疑問は感じなかった。また、RWY Change があった際はタワーからその情報がもらえるはずだという思い込みもあった。エアライン機だけではなく訓練機にも RWY 17 での着陸指示が出ていたため、教官が異変を感じて Confirm するように促してくださり自分の間違いに気づくことができ、RWY 35 の Left Base に入る前に変針できた。そのまま RWY 35 の Left Base に入っていたら RWY 17 の Right Traffic に入ってくる機体と衝突の可能性があったため、非常に危険なエラーであると感じた。後席訓練生はリードバックの間違いに気づいてはいたが、本フライトが技量認定のフライトであったため、アサーションをためらったと言っていた。

▲VOICES コメント

他の訓練機への離陸指示により、自身の RWY 間違いに気づいてよかったです。「認知バイアス」により、自分の思い込みや周囲の環境、これまでの経験といった要因により、非合理的な判断をしてしまうことがあります。技量認定のフライトであっても、クリティカルな状況では教官、後席訓練生も、アサーションをためらわなかったと思います。皆間違いを気づくのを待っていたのだと思います。



[8] 【お知らせ】 JAPA E-Journal の公開



E-Journal を公開致しました。
ぜひご覧ください。

≪運輸技術委員会≫

【JAPA E-Journal 2025-011】

「あなたならどうしますか」

<https://www.japa.or.jp/e-journal>



[9] 【お知らせ】 セミナー・イベント



≪Fly with us～空の仕事ワークショップ～≫

12月20日 沖縄開催

<https://member2.japa.or.jp/seminar/detail.php?sid=4>

≪TEM/CRM セミナー≫

12月6日 大阪開催※基礎コース

<https://member2.japa.or.jp/seminar/detail.php?sid=1>

≪RNAV 講演会≫

2026年1月11日 東京/ ハイブリット形式（来場＋オンライン）

<https://member2.japa.or.jp/seminar/detail.php?sid=2>

≪航空安全講習会≫

2026年3月1日 東京/ ハイブリット形式（来場＋オンライン）

<https://member2.japa.or.jp/seminar/detail.php?sid=3>



[10] 【新発売】 JAPA SHOP よりご案内



【新発売】

・ 区分航空図 JAPA-504（中部・近畿）第7版

ご注文については以下 JAPA SHOP をご覧ください。

<https://www.japa.or.jp/japa-shop>



[11] 【ご案内】公益社団法人 日本航空機操縦士協会 ご入会について



JAPA では会員を募集しております。

ご入会いただけますと、AIM JAPAN の配布の他、団体割引を適用した、JAPA 団体保険（ロスオブライセンス）へのご加入も可能ですので、ぜひご検討ください。

詳細は以下ホームページよりご覧ください。

オンライン入会を導入いたしましたので JAPA ホームページからすぐに入会手続き可能です。

皆様のご入会を心よりお待ちしております。

<https://www.japa.or.jp/member>

★次回の配信は1月中旬を予定しております★

JAPA メールマガジンの配信先変更方法及び配信停止方法については以下、ご参照の上、お手続きください。

<https://www.japa.or.jp/mail-magazine>

【発行】公益社団法人 日本航空機操縦士協会

電話 03-6809-2902

メール japa@japa.or.jp

ホームページ <https://www.japa.or.jp/>
